

どんじゅう しと 今週のことば「使徒」

せいしょ しと げんこうろく
《聖書》使徒言行録 5:12-16

しと 使徒

せいしょ なか でし たい
聖書の中には、イエスの弟子に対して、
じゅうにん しと でし ひょう
「十二人」「使徒」「弟子」といった表
げんみ ことば
現が見られます。これらの言葉はそれぞ
れの含みを持って語られていますし、又
おな せいしょ なか かくしもつ
同じ聖書の中でも各書物によってはかな
ちが いふ もち
り違った意味で用いられています。

しと
「使徒」については、使徒言行録では
しと じょうけん つ
つきりと使徒の条件が次ぎのように書か
れています。

しと
『主イエスがわたしたちと共に生活さ
とも せいかつ
れていた間、つまり、ヨハネの洗礼のと
あいだ せんねい
きから始まって、わたしたちを離れて天
あ いつし
に上げられた日まで、いつも一緒にいた
もの なか ひとり
者の中からだれか一人が、わたしたちに
くわ しゃ ふっかつ じょうにん
加わって、主の復活の証人になるべきで
す』(1:21-22)。

じゅうにん ひとり か
これは、十二人の一人ユダが欠けたの
えら とき はな ことば
でマティアを選ぶ時に話された言葉です。
じゅうにん しと ねな いふ つか
ここでは十二人と使徒が同じ意味で使わ
れています。

ところが、パウロは】コリント15:9で
じぶん しと ひとり しゅちょう
自分も使徒の一人であると主張していま
す。しかし、パウロは使徒言行録で言わ
れているような使徒の条件にはあいません。
つまり、使徒言行録の著者とパウロ
とでは使徒についての理解が違っている
のです。

じっさい こうどう とも
パウロはイエスと実際に行動を共にし
たことがないし、イエスの死以前に見た
ことがなかったのです。使徒言行録では、
しと じょうけん しと
パウロは使徒たちに承認されて、使徒た
ちによって派遣されたとみなされています。

ふっかつ
ところが、パウロは復活したイエスに
であ こと みずか じょうけん じぶん しと
出会った事を自ら証言して、自分も使徒
なか いちばんちい もの しゅちょう
たちの中の一番小さな者だと主張してい
ます。そして、その選びも神から直接召
めの かんが
された者として考えていました。

ふ
こうして見ると、聖書をよく読まない
かぎ ふらん せいがく
限り、ある部分をかじただけでは正確
ことば いふ こと
な言葉の意味がつかめない事がよくわから
ります。

しと げん こう ろく 使徒言行録

しと げんこうろく
使徒言行録はルカによる福音書と合わ
ひと ほん か かんが
せて一つの本として書かれたと考えられ
しと げんこうろく で しゅやく
ています。使徒言行録に出てくる主役は
だれ い じつ
誰なのかと言うと、実は、ペトロでもパ
ウロでもありません。使徒たちはあくま
どうぐ かんが
でも道具としてしか考えられていません。
かみ ねい さいしょ さいご しゅやく
神の靈が最初から最後まで主役なのです。
かみ ねい せいねい きょうかい みちび こと
神の靈である聖靈が教会を導いていた事、
せんきょう
そして、イエスについての宣教がエルサ
はじ ころ ちゅうしん
レムから始まって、その頃の中心であつ
みやこ たつ こと しと げん
たローマの都にまで達した事を、使徒言
こうろく ちよしゃ つた
行録の著者は伝えたかったのです。
ふっかつせつだい しゅじつ ねんだい ろうどく たきの
復活節第2主日C年第1朗誦（滝野）